



## 『承久の変と美濃』の指導

地域教材を生かした授業の一試案

福嶋大前事務局長 浅野 義英

## 一 はじめに

今年、承久の変が起きてから八百年にあたる。この変は日本の歴史上の重要な事件として教科書に扱われている。しかも、その戦場となつたのが各務原であることから、歴史をより身近に感じて学ぶ良い機会と考えている。

平成二十九年度告示された中学校指導要領社会科編歴史分野には、「中世の日本」として、鎌倉幕府の成立について、次のように示されている。「(前略)武士が台頭して主従の結び付きや武力を背景とした武家政権が成立し、その支配が広まったこと(中略)を理解すること」とある。また地域教材の活用について、「身近な地域の歴史として課題を追究したり解決をしたりする活動を通して(中略)自らが生活する地域や受け継がれてきた伝統や文化への関心をもって、具体的な事柄との関わりの中で、地域の歴史を調べたり、収集した情報を年表などにまとめたりするなどの技能を身につける」とあり、郷土の先人の果たした役割についても考えさせたいと思う。

## 二 教材観

源頼朝が創ろうとした幕府はどのようなものであったか。

頼朝の事績を辿ると、平家を壇ノ浦で滅ぼしてから、大江広元の建言で、弟義経などを捕らえるために、文治元年(一一八五)に諸国に守護・地頭の設置、段別五升の兵糧米を徴収することを、朝廷から許可される。

頼朝は、建久元年(一一九〇)右近衛大将、翌々年には征夷大将軍に任じられ、名実ともに幕府を開くことになる。守護・地頭の設置によって、

今までの朝廷を中心とした律令体制と、將軍頼朝を中心とする武家体制の二重の支配体制が生じて来る。しかし頼朝は朝廷を非常に重視した人物であった。その一例は、奈良の大仏再建にあたって僧重源が頼朝に援助の書状を送った文面に、頼朝のこ

とを「君のご助力ならずば云々」とあるのを、頼朝が気に留めて、「君」は天皇を表す言葉で、恐れ多いことだから今後「君」という言葉をこの頼朝に使わないようにと戒めている。そして、朝廷の意向を尊重しながら政治をしていた。

その姿勢は、三代將軍源実朝にも受け継がれた。実朝の有名な和歌に

山は裂け 海は浅せなむ 世なりとも 君にふた心 我あらめやもとあるように、源氏將軍は尊皇心が

厚かつたと言える。

それに比べ、北条氏は將軍一代頼朝と三代実朝とを謀殺し、頼朝の御家人たちを次々に滅ぼしている。また京都より頼朝の縁戚の幼児を將軍に迎え入れ、政治的発言をもつ成人になると廃嫡させて北条氏による執権政治をめざした。頼朝は、あくまでも源氏將軍家として、律令体制の

もとの幕府政治を試みたのに対して、北条氏は私的な権力維持のために支配体制を固めて行った。

この状況に憂慮された後鳥羽上皇は、朝廷の権威回復のために義時追討の命令を全国に出され、それに応じたのが美濃の武士たちであった。

三 指導案

(1) 単元学習計画

1. 源頼朝と鎌倉幕府

2. 承久の変と美濃(本時)

3. 執権政治の確立と武士の生活(承久の変の処置と、いざ鎌倉)

4. 鎌倉仏教と文化

5. 元寇

6. 後醍醐天皇の倒幕の動き

7. 新聞作り(単元学習のまとめ)

(2) 「2. 承久の変と美濃」の指導

各時間の課題を追究するために、「導入」課題設定→展開1調べる→展開2深める・広める→終末・まとめ」の過程をとり、実践する。その

活動をを通して生徒の資料の読みとり能力、比較推論などの思考力を育てたい。

①【学習目標】承久の変を通して、勅命を重視した武士、所領の拡大を図った武士などの動きを知る。朝廷側について美濃の武士たちの生き方に思いやる。

②【学習展開】

〈導入〉後鳥羽上皇の肖像提示し、北条義時追討の院宣が出された理由を、源氏將軍と北条氏の系図、北条氏と御家人の争いなどで解説する。

〈課題設定〉朝廷側と、幕府側の武士たちはどのような思いで戦ったのだろうか。

〈生徒の予想〉布陣図から、幕府側が約十五万、朝廷側は約二万、幕府側が圧倒的に多い、どちらが勝つか様子を見て戦う。



「木曾川の戦い」 布陣図

が約十五万、朝廷側は約二万、幕府側が圧倒的に多い、どちらが勝つか様子を見て戦う。

〈展開1 調べる〉 提示資料が多いので、班ごとに朝廷側と幕府側に分けて資料を読みとり、考える。○朝廷側の資料

①源実朝の和歌(金槐和歌集)

②山田重忠の誓葉(承久記)

③敬月法師の和歌(吾妻鏡)

○幕府側の資料

④北条政子の演説(承久兵乱記)

⑤武田・小笠原氏の動き(承久記)

⑥北条時房の武田・小笠原氏への手紙

各班で、各人が読みとった資料をもとに、意見交流をする。教師は机間巡視をし、資料でわからないところを教える。

①の資料から、三代將軍実朝の朝廷への忠誠心を読みとる。

②の資料は木曾川の愚侯での山田重忠の誓葉時の言葉、「(勅命を受けて)木曾川を守る者が、賊軍が多いからといって戦らしい戦をせずして引き退くのでは、上皇より戦いはどうであつたかとおたずねがあれば、何と答えるべきであろうか。(武士として情けない)を知る。

③敬月法師の和歌「宇治河の戦い」勅なれば、身をば捨ててき 武士のやそ宇治河の 瀬には立たねど

(勅命を受けたなら、身をも捨てても戦うのが武士である。だから宇治川で戦おうとしたのであるが、途中で捕らえられて、今斬られようとする身が無念である)

④北条政子の演説「皆さん考えてもごらん下さい。昔、東国の武士が平

氏に官仕えしたとき、あなたがたは、はだして京へ行ったり、国へ帰ってきたりしたではありませんか。頼朝公が、鎌倉に幕府を開いてからは、京都への官仕えも少なくなり、「ご恩

として領地も与えられ、武士は大変喜んでいてありませんか。頼朝公のこのような「恩を忘れ、三代の將軍の墓を朝廷側の馬のひずめにか

けさせてよいものであるか。もし朝廷側につくのであれば、まず私を殺し、鎌倉中を焼き払ってから京へ上りなさい」

⑤武田・小笠原氏の会話「木曾川大井戸の渡し」

小笠原「この世の中は無常の世界、何をたよりに、これからどう戦つたらよいのだろうか」

武田「そのことで、小笠原殿、そこが一番大切なところですよ、鎌倉が優勢なれば、鎌倉につきましよう。朝廷側が優勢なれば朝廷側につきましよう。これが武士の身の習いですよ。」

⑥北条時房の武田・小笠原への手紙

武田・小笠原殿、大井戸・河合の渡しを進撃していただければ、美濃・尾張・甲斐・信濃・常陸・下野六カ国を恩賞として上げましよう、この手紙を見て、武田、小笠原、なら進撃せよ」と川を渡る。

(全体交流) 各班でそれぞれの資料

を根拠に話し合い、全体の場に広める。

【生徒の反応】

a. 朝廷側の武士は、勅命(天皇の命令)を重視して戦った。

b. 幕府側の武士は、頼朝夫人政子の「恩の話を聞いて、北条についたものが多かった。

c. 武田氏や小笠原氏は、優勢な方や、多くの恩賞(土地)を期待して、戦う者が多かったのではないか。

(展開2) 美濃の武士の多くが朝廷側で戦って戦死しているが、美濃の武士の生き方についてどう思うか。

○資料「戦死した美濃の武士」提示

關太郎、長瀬六郎、蜂矢入道と子の頼俊、大桑太郎、小島三郎・六郎・七郎、帯刀左衛門尉、神地入道、關左衛門尉政長、土岐判官代、木田重國、子の重知、甥の重季、白井太郎入道など一族郎党等。

d. 山田重忠のように、勅命を重んじて戦死したと思う。

e. すごい勇気がある。悲劇でもあらう。

f. どうして勅命をそのように重視したのであろうか。

g. 武田氏や小笠原氏のように優勢な方につき、要領のよい生き方をすればよかった。

(終末) 八百年前、各務原を流れる木曾川でこうした戦いが繰り広げら

れた。そして現在、木曾川沿いの前渡にある矢熊山中腹(各務原市仏眼院不動明王)に、当時戦死したと思われ、多くの武士の五輪塔がある。

今も地元の有志の方々に大切に保存され供養されていることに触れ、本時のまとめを書かせる。

四 おわりに

承久の変の歴史的意義はどこにあるだろうか。この事件後、北条氏の朝廷に対する処罰は厳しかった。二上皇、天皇を島流しとし、多くの公家や武士を処刑した。京都には朝廷を監視するために南北六波羅探題を置き、朝廷側の所領を恩賞として新たな地頭を置いた。そして、北条氏の執権政治は確立された。

これは従来の京都の朝廷の政權から支配権を奪い、その後の長い武家政權を確立していく大事件であった。それは朝廷という公權を北条氏が奪った私權の確立であり、將軍を蔵ろにした下剋上の走りでもあった。

この事件の百年後に、後醍醐天皇の倒幕運動が起こり、激動の騷乱時代、戦国時代へと辿っていく。

一方で、その事件は、建武中興とともに明治維新の王政復古の流れとなり、幕末に多くの志士の尊皇思想となつて、近代国家へと繋ぎ、進展させていくのである。

## 【解説】

## 教員免許更新制度の廃止

編集者

本年八月、文部科学省は教員免許更新制度を廃止すると発表をした。

この制度は、平成一九年に導入され、それまで大学で一定の単位を取得すれば生涯有効な免許であったものに一〇年間という有効期限を設け、二年間で三〇時間以上の免許状講習の受講を義務づけたのである。

これは昭和五八年の自民党文教制度調査会での議論が発端であるが、平成一八年に発足した第一次安倍内閣が教育改革を推進するために設けた「教育再生会議」の提言に明示された。すなわち平成一九年一月に出された第一次報告の「四つの緊急対応」の一つとして「教員免許更新制の導入」が提案されたのである。

当時、教育現場では子供たちの学力低下やいじめ不登校の問題が解決すべき課題であり、それまでの「ゆとり教育」への批判とともに教師に対して指導力の向上が求められた。

もともと教育公務員には法律で「職責を全うするために研修と修養に努めなければならない」と規定されている。そこへ研修を法律で義務づけるねらいは指導力不足や不適格

な教員の排除にあるのではないかと批判があった。

しかし、文科省の公式な見解は、不適格教員の排除を目的としたものではなく、あくまでも「その時々で求められる教員として必要な資質能力が保持されるよう、定期的に最新の知識技能を身につけることで、教員が自信と誇りをもって教壇に立ち、社会の尊敬と信頼を得ることを目指す」と説明されていた。

制度のおおよその流れは、免許の有効期限を確認し、期限前の二年間に大学などで開設される三〇時間以上の免許状更新講習を受講し、修了認定を受けてから都道府県教育委員会に更新の申請をして完了する。

講習は二つの内容があり、必修領域（教職についての省察、子供の变化、教育政策の動向等）を二時間以上、選択領域（教科指導、生徒指導等）を一八時間以上とることとなっている。また受講費用は自己負担で約三万円がかかる。

対象者は平成二二年四月一日以前に免許を取得した人は、年齢で受講期限が定められ、それ以降に免許を取得した人はその一〇年後が期限となっている。

第一回の講習は平成二三年度中に三五歳・四五歳・五五歳となる人を対象に行われた。そのうち本年度中

に四五歳・五五歳となる人たちは二回目の受講をしている。

こうして一〇年が経過したが、その成果ははかばかしくなく、文科省は中教審の小委員会へ、「発展的に解消する」との審議のまとめ案を提出して大筋賛同を得たのである。

何が問題であったか。筆者は最初の講習時期の前に退職していたので更新体験をしていないが、親しい教師に成果を問うと、最新の教育の動向が聴けて大変勉強になったということであった。しかし、新聞報道によれば六割の受講者が講習に不満を持ち、廃止を求める意見が多数であったという。

理由として挙げられたのは学んだことが現場に生かせないということと、働き方改革を推進している最中に夏季休業中とはいえ講習に少なからず時間を割かねばならず、教員の多忙さに拍車をかけるという矛盾の指摘があった。また管理職の悩みの一つに講師探しがあるが、退職者の免許が失効しては益々必要な教員数の確保が難しくなることもあった。

教師の醍醐味は、目の前の生徒が勉強や体育で伸びる姿を見ることであり、そのために教師は授業の準備をし、勉強もする。その原点到立ち、主体的に研修に向かえる学校の態勢を研修制度を検討して欲しい。 H

## 【微風烈風】

人命の尊さはいつも強調される。「死んではおしまい」という言葉はよく耳にしてきました。であるのに悲惨な事件はおきている▲「教室に今、凶悪な者が君たちを襲おうとして入ってきた。僕は死んではならないと君たちをそのままにして一目散に逃げたら、次の日の僕の授業を聞きますか」と言ったら、全員が「聞かない」と答えました。先生の命はその時点で肉体だけが残っておしまいにされたのです。人は死に場を失うと尊厳は保たれないことを生徒諸君は教えてもらっていないのに身につけているのです▲世の中は、不本意でも「であるかのように」ふるまうことがたくさんあります。実際を生きていると、身につけている価値との二重構造です。純真な若者はこれを当然とする大人達に不信感を持っているのです。言うこととやることに違いがあつては、教育は成り立ちませぬ▲今、退職した元先生も含めて、教え子から年賀の挨拶はきますか。訪問はありますか。話題にあげてもらっていますか。知識、伝達の名人であると同時に尊敬の対象になってください。口さきでない先生の心の持ち方は労働時間を短縮して子供を大きく育てます。 Y